通巻154号
平成26年12月 号No1

奈弓連だより

発行　奈良県弓道連盟
会長　西中　正
編集　担当　土谷尚敬
衞藤博史

◆地連会長会議報告◆

１１月２７日、全国地連会長会議（中央道場会議室）が開催されました。報告事項に、今、皆さんが関心を持たれている①矢羽の取り扱いについて②国体・弓道競技について、が話題に挙がりました。

①矢羽の件については、全弓連役員と内閣府との話し合いがもたれた報告、全弓連の対応状況の概要を示されました。

臨時理事会で、矢羽の使用に関する準則委員会と矢羽の認定に関する検討委員会を設置された。現在までの活動状況は、所轄官庁である環境省にも相談しながら委員会で、ワシントン条約の対象となるワシタカ類の矢羽につき、保有者の申告に基づき一覧表を作成して全弓連に登録し、大会等で矢を使用する場合に、申告書の携行を義務付けて会場で照合する方法を前提とする準則の制定を検討している。これにより、事実上、出所の不明確な矢羽の使用が抑制され、将来的な登録制の導入につなげることが企図される。皆さんの対応としては、矢羽だけでなく現在、手元にお持ちの弓具は大切な財産で宝物です。大切に使ってください。
ただ、全国大会等に参加する場合、登録された矢羽を使用するようになるようです。これから購入、贈与される場合、適正に対処してください。

②国体・弓道競技については、第７０回和歌山大会以降「競技規則改定に伴う時間制限の変更」および「専任監督の配置に係る参加人員の見直し」に関し、報告ありました。

時間制限については、１団体１２射の場合は、近的競技**７分３０秒**以内、遠的競技は**６分３０秒**以内とする。１団体６射の場合は、近的競技**４分３０秒**以内、遠的競技は**４分**以内とする。に決まりました。
参加人数の見直しについて、第６９回長崎大会までは、成年男子、女子は選手兼任監督でしたが、専任監督を置くことに決まり、参加選手枠（成年男子）が減りました。近畿ブロックは成年男子**３**、成年女子３、少年男子２、少年女子２、の選出です。
来年度、和歌山大会では、開催地優遇（全種別出場）され、ブロックの内数とされ、成年男子**２**、成年女子**２**、少年男子**１**、少年女子**１**、となります。大変厳しい大会になります。

その他、平成２６年度優秀地連表彰（経過）について、現時点で奈良県は国体、成年女子の活躍で２９位となっています。残すところ全国高等学校弓道選抜大会があります。頑張ってください。

（会長：西中　正）

◆第２回中堅層特別講習会の開催

１１月３０日（日）第２回中堅層特別講習会が橿原公苑弓道場で開催されました。
（参加者２５名、男性１４名・女性１１名）

中堅層の会員の射技・体配の向上及び連盟の指導者としての心構えや資質の向上を図ることを目的とする講習会で、７月２７日に第１回が開催されて４ケ月経っての第２回目でした。前回の、執弓の姿勢から跪坐、入場等の基本動作の内容について各自研修して臨んでいるので、どんどん引いてもらおうという方針で講習が始まり、一手行射の後、西浦主任講師より、入退場・歩行・跪坐・矢番え動作等について複数名で引くので息合いを意識して欲しい等の講評がありました。

その後、特別講師の須田顧問より「指導者としての心構え」というテーマで講話をいただき、『弓道講座』についてのお話、初心の内に何を教えるか、美しい物が良い・シンプル・無駄な動きがないというのが弓の求めるところ、自分を磨く、知識を身につける等々含蓄のあるお話を伺うことができました。

午後から肌脱ぎ、たすき掛けの研修、介添えの研修、射技の研修とプログラムは進み、和気あいあいの中にも、受講生の連盟の将来の指導者とならなければという熱意とやる気が満ち溢れた頼もしさを感じられた充実した講習会となりました。　（指導部：山本元祥）

◆第65回全日本弓道遠的選手権大会

日程：平成26年10月24～26日
場所：全日本弓道連盟中央道場

■全日本弓道遠的選手権大会に参加させて頂いて

１０月２４日から２５日まで東京の中央道場にて行なわれた全日本弓道遠的選手権大会に参加させて頂いて、感じたことは、『弓道にこんな静かな試合があるものなんだ』と感激しました。それは大きく３つあります。

一つは、道場には関係者のみの入場規制が厳格に守られており、入場証にあたる一段と大きな全日弓連のバッチとその下についている担当役員の記入明記のためのリボンを装着していないと玄関にいらっしゃる受付員の方々に入場を規制されますので道場館内にはざわめきやおしゃべりの声がなく２００人を超える人々が居るはずなのに静寂さえ感じてしまうほどの空気感です。

二つ目は、応援に来られている観客の方々の静かなことです、的中には必ず拍手のみの応援で統一されておりこちらも今までに体験したことのない試合でした。

三つ目は、一番驚いたのは選手の方々です。

（次ページへ）

通巻154号
平成26年12月号No2

奈弓連だより

発行　奈良県弓道連盟
会長　西中　正
編集　担当　土谷尚敬
衞藤博史

選手控室と巻き藁道場と射場控えと射場とそれぞれの何処にいても皆さん淡々とされて一人一人が各都道府県代表の重みと責任感などなど既に澄ましにはいっておられるようでした、巻き藁道場においては、ただただ弦音が響いているだけでした。射場控えでも、静かなもので各選手は呼び出しされることもなく早くからしっかり到着されていて、係の方が大声で呼び出しされることもありませんでした。射場が静かな試合は当たり前ですが、こんなにも総べてが静寂に包まれた大会は初めてでした。

この度私はこの荘厳で静寂な大会に参加させて頂いて心より感激とともに、送り出して頂けたことに心より感謝申し上げます。ただ、あまりにも大きな道場にのまれてしまい結果を持って帰れなかったことは反省しておりますが、私の中でこの大変貴重な体験をさせて頂いた御蔭で一つ持って帰ってこれたものをこれからの弓道に日々精進していく糧になっています。

最後になりましたが、遠方にもかかわらず沢山の方々に応援にお越しいただきましたことと奈良より応援していただいた方々に心より御礼と感謝を申し上げます。
有難うございました。　（郡山支部：奥戸由美）

■全日本遠的選手権に出場して

10 月 24 日(金)～26 日(日)にかけて、第 65 回と歴史のある遠的選手権に県代表として出場させて頂きました。

１日目は、午前中公開練習、午後から明治神宮本殿での参拝、開会式、矢渡と徐々に身の引き締る思いでした。県代表４名は先ずは決勝進出を目指して明日から頑張ろうと誓い合いました。

２日目も晴天に恵まれ、男子 106 名、女子 100 名は、24 位内を目指して頑張りました。公開練習では７～８割的中していた射が実際予選では、信じられない結果に成り、４人は応援して頂いた人達に申し訳ない思いと、自分自身の弱さに対して無念な思いをしました。

３日目は決勝を観客席から応援しました。決勝進出者 24 名は光り輝いているように見えました。今回自分たちとどこが違うのか？深い会なのか？揺ぎ無い的付けなのか？このような短期決戦の場合、自分を信じ、運も味方に付け波に乗ることが大切ではないのかなと思いました。又、試合の合間には近畿代表の選手達は勿論、他府県の選手達とも交流を深め、弓道談義に花を咲かせ、有意義な時を持たせて頂いた事に感謝致します。
（橿原支部：明﨑静代）

■遠的選手権大会

10 月 24 日～26 日に東京・中央道場で開催された全日本遠的選手権大会に出場させていただきました。自分自身 2 回目の出場であり、昨年の経験やそこからのプラスアルファで、今年は内容・結果ともに前進したいと思い臨みました。会場・選手の雰囲気や、射場に入るまでの時間の使い方などは分かっていてスムーズに試合に入ったつもりでしたが、やはり一歩道場に入ると、誰に邪魔されている訳でもないのに勝手に自分から悪い方に悪い方に崩れていってしまいました。開会式で「不動心」で試合に臨むようにというお話がありましたが、まさにその一言に尽きると思います（当然普段の実力はより一層高めないといけませんが・・・）。

決勝に残る選手は体と弓矢が安定し、会・離れにブレがなく、矢を遠くに飛ばすためにしっかり体を使ったという伸びのある残身が印象に残りました。決勝に残る常連選手の中にはお互いに誘いあって最低週 1 回は遠的練習をする人達もいるという話も聞きました。今後、切磋琢磨出来る仲間と、質・量ともに追求できるような強い心をもって練習に励んでいきたいと思います。

これまでご指導して下さった先生方、先輩方、応援して下さった皆様に感謝するとともに、もう一度大きな舞台に立ちたいと強く思った 3 日間でした。
（橿原支部：原田祐介）

◆第32回　奈良女子弓道大会

日時：11月24日（月）
場所：奈良市弓道場

高校５チーム、大学7チーム、一般23チームの参加者合計１１４名が和気あいあいの雰囲気の中、日ごろの練習の成果を競い合いました。

＜団体戦＞
１位　橿原D　17中　林秀子・林万智子・小野温美
２位　奈良高　14中　野島夢希・松岡奈央・辻本悠
３位　郡山B　14中　上田幸子・奥戸由美・平井摂子

＜個人戦＞
弐段以下の部　１位　栗栖理子（奈良大）
　　２位　木場皐　（天理大）
　　３位　松岡奈央（奈良高）
参段以上の部　１位　平井摂子（郡山）
　　２位　林秀子　（橿原）
　　３位　奥戸由美（郡山）

（奈良支部：辰巳好美）

（右上へ）

通巻154号
平成26年12月 号No3

奈弓連だより

発行　奈良県弓道連盟
会長　西中　正
編集　担当　土谷尚敬
衞藤博史

◆第４０回奈良県中学校弓道新人大会

日時：平成２６年１１月１５日（土）
主催　　奈良県中学校体育連盟
会場　　橿原公苑弓道場

試合当日は天候にも恵まれ弓道の試合を行うには最適な１日となりました。３年生が引退して各中学校とも、新チームでの試合となりました。この大会で参加人数は男子５３名、女子８８名でした。結果は以下の通りです。

＜個人戦＞

男子		女子	
優勝	馬場魁斗（香芝）	優勝	浜田侑芽（八木）
２位	書川大和（香芝）	２位	小林のの（大成）
３位	米田琢人（大成）	３位	平井明日香（大成）

＜団体戦＞

男子：　優勝　香芝Ａ（米田　書川　廣田）
　　２位　香芝Ｃ（藤井　北河原　馬場）
　　３位　八木Ａ（野村　鍵谷　木岡）
女子：　優勝　橿原Ａ（長谷川　松本　谷口）
　　２位　大成Ａ（小林　田原　池上）
　　３位　八木Ｂ（堀口　細川　浜田）

＜１年生個人の部＞

男子　：　優勝　山下優一郎（香芝）
　　２位　岩井郁也（橿原）
　　３位　吉田　悠真（大成）
女子　：　優勝　小西友香（橿原）
　　２位　谷上瑠菜（橿原）
　　３位　吉田実莉（橿原）

（中体連：中前芳一）

祝合格

近畿臨時中央審査にて

六段　小林保彦さん

錬士　高柳詩子さん

が合格されました。

おめでとうございます。

◆村上氏追悼射会

11 月 23 日(日)香芝中学校弓道場において、故村上康男さんの三回忌を迎えるにあたり追悼射会を行いました。

生前、村上さんは「蒼い空の下で弓を引くから蒼穹会。なんていい名前だろう。ホントに弓道がしたくなるよ」とよく話されていました。その言葉の通り、当日は蒼い空から暖かな陽射しの注ぐなか、村上さんの奥様をお招きして射会は始まりました。

昔からの仲間や現役の学生、弓を休んでいる方までたくさん集まりました。射会は蒼穹会会長の矢渡し、称号者による一つ的射礼、段位順による行射と続きました。一人ひとりが村上さんを偲びつつ、一本一本大切に引いていました。

終わりに奥様からは「毎週、弓道がなぁ…と言いながらいそいそと出掛けて行った主人の気持ちが解った気がしました。きっと本人が今一番弓を引きたいだろうと思います。」と挨拶され、射会は幕を閉じました。

村上さんのご冥福をお祈りいたします。

（蒼穹会：牧浦信恵）

通巻154号
平成26年12月号No4

奈弓連だより

発行　奈良県弓道連盟
会長　西中　正
編集　担当　土谷尚敬
衞藤博史

◆第２５４回地連審査会

12月14日橿原公苑弓道場で審査会を実施しました。結果は以下の通りです。

【級位】　受審者４７名(欠席１名)
合格者　１級２５名　２級１０名
３級　７名　現級　４名

【段位】　初段　受審者４１名(欠席２名)
合格者１５名
弐段　受審者　６名
合格者　１名
参段　受審者２０名
合格者　６名
四段　受診者　８名(欠席１名)
合格者　１名　片山猛（錬弓会）

(審査部：明瀬綾子)

◆橿原市弓道協会合宿研修会

１１月８、９日に伊勢神宮弓道場で市協会員３２名の参加を得て、合宿研修会を行いました。今年は橿原弓道の歴史を一番よくご存じで市協会顧問でもある、竹村先生を特別講師に招き、「伝統の地伊勢で、橿原弓道の現在、過去、未来を考える」をテーマに掲げ、未来に向けて市協会が、また会員一人ひとりが弓道家として向上していくための研修を目的に合宿研修を行いました。

初日は早起きして奈良を出発し、外宮を参拝した後、神宮道場に入りました。小野五段の矢渡で研修会を開始し、全員の一手行射ののち、午後は低段者側の持ち的射礼を中心に研修を行いました。射礼を初めてという者もおり、射礼の動作の指導はもとより、執り弓の姿勢を相互に確認し合う等、基本に立ち返っての研修を行いました。昼食後は竹村先生より、弓道との出会いから選手や監督としての国体におけるエピソード、またそれに向けた橿原公苑道場での強化練習等、橿原が担ってきた貴重な話を聞かせ頂き、弓道を修練していく上での思いや姿勢について非常に参考になりました。　(右上へ)

二日目は、内宮参拝後に竹村特別講師・阪中会長・山本副会長による一つ的射礼から研修を開始しました。凛とした神宮道場の雰囲気の中、三先生の息の合った一つ的射礼は伝統美を体現するものでした。その後、高段者側の一つ的射礼の研修を行いましたが、場の掌握を行うことなど、射礼に臨む姿勢についての徹底を行いました。午後からは競技力の向上を目的に、団体によるトーナメント戦を順位決定競射を含め行い、国体さながらの！？白熱した試合となりました。

閉講式ではトーナメント戦の優勝チームと両日の研修を通して真摯に取り組んできたメンバーに竹村先生から書絵の色紙を頂きました。

昼食時のおかげ横丁や一部早起きメンバーの早朝赤福本店、更には夕食後の昼間のビデオをネタにした特別研修会名目の宴会と緩急軽重よろしきを得ながら！？の充実した合宿研修でした。

(橿原支部：衞藤博史)

編集後記

スポーツの秋を終え、今月は大会や支部活動等、多数の投稿を頂きました。そのため、４ページという紙面になり、各支部の掲示にも場所を多く割くこととなっているのではと危惧しておりますが、情報の即時性を優先させて頂きましたので、ご了承願います。

今週は１２月とは思えない強烈な寒波に見舞われました。寒さに負けず、練習に励み、皆様が良い年を迎えられますようお祈り申し上げます。